

# yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より  
パソコン室から 不定期 発行

No.9-1  
平成19年5月24日  
情報教育アドバイザー  
広田 さち子

## センセイコール (1) 1/2

パソコン室での授業では、子どもたちは頻繁にセンセイコールをします。

これらをよく調べてみると、本当にわからなくて先生を呼ばなくてはいけないケースは少ないことがわかります。ちょっとのヒントで、自力で解決できる場合がほとんどです。

どんなセンセイコールがあるかというと、次のようなことです。

- 1) 変なものが出てきた(右クリックメニュー)
- 2) 変なものが出てきた(スタートメニュー)
- 3) 画面操作がなにもできない(コマンドが途中)
- 4) 変なものが出てきた(バルーン)
- 5) 文字入力ができない(アクティブでない)
- 6) 文字を入力しようとしたら、あるいは、文字入力練習ソフトで練習中に変なところに文字(かな)が出てきた
- 7) 文字入力が仮名(ローマ字ではない)になる
- 8) 文字入力が半角アルファベットになる
- 9) テンキーで数字が打てない
- 10) 文章がちぎれた、空行が挟まった
- 11) 文字入力枠(テキストボックス)の横幅を小さくしたら、文章の表示が変になった
- 12) 入力した仮名を漢字やカタカナにしようとしたら、空白が挟まった
- 13) 変換したら、おかしい漢字が出る、一部しか漢字にならない
- 14) 入力した文字の一部が真っ黒(反転表示)になった
- 15) オートシェイプに色塗りしようとしたら、色がない
- 16) オートシェイプを挿入した(動かした)ら、画面(それまでのレイアウト)がめちゃくちゃになった
- 17) ワードの入力が一瞬ですべて消えた
- 18) ファイルを開けない(2重に開いている)
- 19) 画面が反応しない、エラーが出る、音がたくさん聞こえる(ソフトの複数起動)
- 20) コンピュータがロックされた
- 21) 音が出ない・小さい
- 22) 椅子が高い・低い
- 23) これでいいですか？
- 24) 次に何するんですか？

# yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より  
パソコン室から 不定期 発行

No. 9 - 2  
平成19年5月24日  
情報教育アドバイザー  
広田 さち子

## センセイコール (1) 2/2 ( 1/2 のつづき )

(このうち、1)~3) は、前に書いたようにEscキーで解決できます。)  
※2) だけは、5) に移行します。

センセイコールが多いと、先生はそれに対応するのに追われて、授業を進めることは難しくなります。

子どもたちに解決法がわからず、先生にはわかる、というのは、先生が状況を見て何が起きているか判断できるからです。子どもたちが自力で解決できるようになるためには、呼ばれた先生は、たとえ子どもたちより素早く対処できたとしても、無言で解決してしまうのではなく、状況を説明して子どもたちが判断できるようにしてやらなくてははいけません。また、操作も子ども自身が行うことが大切です。

先生が解決してしまうと、その場は手際よく済むかも知れませんが、いつになっても子どもたちは自分で考え判断することをせずに、先生を呼んで解決してもらおうとするでしょう。

子どもたちが慣れてくれば、だんだんセンセイコールも減るというものです。

状況判断は、画面を見て行うのが普通です。つまり、画面から適切に情報を読みとる力が必要になります。

パソコンは、使用者とコミュニケーションをとりながら、動作しています。このコミュニケーションがスムーズに行われないと、パソコンは思ったように動作しません。「思ったように」動作していませんが、「指示したとおりに」は動作しているのです。ただ、使用している側は、「うまく動かない」と思ってしまいます。

パソコンに指示する(話しかける)道具は、マウスとキーボードです。また、パソコンからの返事は、画面と音とで受け取ります。スキルの授業は、この訓練である、とも言えます。

21)までは、コンピュータ上で解決しますが、このほとんどは、画面を見れば一瞬で解決法がわかります。

これらの問題の状況分析、解決法、子どもたちへの説明の仕方を、これからあと、順に解説していく予定です。